

飛鳥高校の大学入試共通テストへの対応

●試験科目		
	共通テストの新傾向	飛鳥高校の対応
英語科	23年度までの時限措置として残る試験は発音・アクセント、会話、文法を問う問題などが長文読解の問題へ。文量が大幅に増え、読解の速さ正確さが求められる。20年度以降は外部試験として4技能テストを採用。	<ul style="list-style-type: none"> ・英検のとGTECの1, 2年全員受験 ・土曜講習による文法・語彙補強 ・英語蔵書による多読活動 ・英語劇校内コンテストやオンライン英会話による英語運用能力の底上げ ・多国籍なALTによる多様な英語への順応
国語科	マークシートだけでなく、記述式の解答が求められる。さらに、複数のテキストを比較することを通して思考力を問われる問題が出題される。	100字要約・150字要約や、問いに対する解答を文章でまとめる力をつけるため、課題や考査で力をつけます。また、授業によってはグループ発表・討論・ディベートを実施し、資料を分析したり社会問題を取り上げたりし、思考力を深め総合的に理解する力をつけていく。
数学科	「数学Ⅰ」の範囲から3問、マーク式問題と混在する形で出題される。試験時間は現行のセンター試験の60分から70分に延長される。よって、「見たこともない問題を、問題の意味をしっかりと理解し、自分で解法を考える」の能力が問われる。	1学年(必履修)においては、「問題文の意味理解」に重きを置いて授業を行う。また、「見たこともない問題」を定期考査において出題する。 2学年3学年(選択授業)においては、記述式の問題を中心に授業を展開していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に基づく探究活動を通じ、科学的な思考力等を問うような問題。 ・思考力を引き出すために、多様な関連資料を活用して導かれる判断力や表現力を駆使して解かなければならない問題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に関する問題の中から本質的な情報を見いだす読解力向上の授業。 ・実験等を通じ、題解決に向けて主体的に考察・推論する知的包括力を求める授業。 ・数的処理を伴う思考力等を鍛える授業。 ・上記能力を正確かつ短時間で発揮できるよう演習問題を活用する。
社会科	記述式の設定・思考力を問う設問が出題されることが予想される。	<ul style="list-style-type: none"> ・諸資料から必要な情報を読み取り、単語ではなく文章で思考を表現できるよう、各授業の演習で取り組ませる。
●試験科目以外の教科		
保健体育科	共通テスト全体の傾向 記述式の設定 思考力を問う設問 への試験科目以外の教科の対応	生徒の主体的なグループ活動の中で、リーダーシップやフォロアシップを育み、知徳体のすべての力を向上できるように、全年次で取り組んでいる。
芸術科		「思考力・判断力・表現力」を培う課題の設定及び評価
家庭科		教科の特性を生かし、「学力の3要素」を育む。実技・実習・課題研究及び発表などの授業の工夫。「子どもの発達と保育」の授業内容を改善・工夫し、保育体験(ボランティア・体験実習)も充実させる。
情報科		生徒一人一人が主体的に学ぶことができるように、情報活用能力を身に付けさせ、情報社会を生きる上で必須の素養となる「情報を科学的に理解させること」に重点を置く。